

平成 2 6 年 度

玉川温泉道路災害復旧工事

工事番号 S A 2 6 - 1 0

特記仕様書（実施）

生活環境部 自然保護課

1. 共通仕様書の適用

本工事の施工に当たっては、「秋田県土木工事共通仕様書（平成26年4月1日以降適用）」に基づき実施しなければならない。

<http://www.pref.akita.lg.jp/icity/browser?ActionCode=genlist&GenreID=1300148411260>

2. 共通仕様書に対する特記仕様事項

共通仕様書に対する特記仕様事項は、次のとおりとする。

第 1 章 総 則

第 1 条 施工計画書

施工計画書は、「共通仕様書（参考資料）」により作成するものとし、第 1 回打合せ後、速やかに提出するものとする。

第 2 条 工事に対する情報連絡

施工箇所が十和田八幡平国立公園内であるため、請負者は、工事の施工にあたって監督員と協議の上、あらかじめ市町村及び関係機関に対して、施工の内容、工程、その他の施工計画について説明を行うとともに、異常事態の発生が予想される場合または発生した場所の通報、連絡及び避難の方法等を周知徹底し、工事に対する理解と協力を得なければならない。

第 3 条 参考図書

設計図書の他に提示する「参考図書」は迅速な見積もりに対しての一資料であり、請負契約上は拘束力を生じされるものでないことに留意すること。

第 2 章 材 料

第 1 条 県産材（間伐材）を利用した工事名標示板

本工事には、県産材（間伐材等）を柾木に使用した工事名標示板を工事現場に 2 基設置すること。柾材の仕様は、あらかじめ監督職員の承諾を得なければならない。県産木材の確認は、「工事名標示板における県産材使用の確認方法」（県HP参照）により行う。また請負者は、工事名標示板の設置にあたっては第三者等への安全確認をしなければならない。
県産材を利用した工事名標示板について：

http://www.pref.akita.jp/kenkan/sekisan/shiyo_sankou_220401/04-43mokuseihyoujiban.pdf

第3章 一般施工

第1条 事前測量

着工後直ちに測量を行い、監督員と協議すること。また、起終点は現地の立ち会いにて決定する。これにより工事数量が変化した場合は承認の上、変更設計にて対応するものとする。

第2条 工事用地等の使用

工事の施工上、請負者が必要とする用地については、請負者の責任において準備、確保するものとする。

第3条 段階確認

工事の施工にあたって、次の段階確認を実施する。

床掘完了後の出来形及び平板載荷試験時	1回
生コンクリート（耐酸性及び高炉セメント）の品質試験	各1回
埋め戻し前の躯体出来形寸法及びコンクリート反発強度	1回

第4章 その他

第1条 疑義

本特記仕様書に明示した事項及び不明な事項について疑義が生じた場合は、速やかに監督員と協議しなければならない。

第2条 工期

工期については、契約着手年月日から平成26年10月31日までとする。

第3条 安全対策

本工事は、十和田八幡平国立公園での工事となるため、自然景観への配慮及び第三者への安全対策には十分留意すること。

平成 2 6 年 度

玉川温泉道路災害復旧工事

工事番号 S A 2 6 - 1 0

条 件 明 示 書

生活環境部 自然保護課

現場確認事項（条件明示）

本工事における施工条件については、明示されなかった新たな事項が発生した場合別途協議します。

1. 工程管理

本工事は、十和田八幡平国立公園内の施設整備工事であり、公園利用者や観光客などの来訪者が想定されるため、施工中及び休日の安全対策には十分配慮すること。

2. 施工箇所

仙北市田沢湖玉川字渋黒沢

3. 施工内容

（1）作業土工

発生する残土については、運搬距離 $L=22.5\text{km}$ 以内を見込んでいる。処分先については監督員と協議するものとする。

（2）コンクリート擁壁工

擁壁工下部（図示）には、耐酸性コンクリート（耐酸セラメント18-8-40 W/C $\leq 60\%$ ）を使用し、擁壁工上部（図示）については、生コンクリート（高炉18-8-40 W/C $\leq 60\%$ ）を使用し構築するものとする。

また、フーチング以外の壁体前面には化粧型枠を使用し、擬石模様を施すものとする。

（3）歩道工

RC-40 材にて路盤工を構築し、再生⑦細粒度アスファルトにて舗装を実施する。

（4）防護柵工

ロープ柵は、サヤ管建込式として2.4m設置するものとする。

（5）構造物撤去工

本工事にて発生するアスファルト殻については、（有）鈴建興業に中間処分するものとして運搬距離 $L=45\text{km}$ を見込んでいる。

また、コンクリート殻については、（有）鈴建興業に中間処分するものとして運搬距離 $L=45\text{km}$ を見込んでいる。

(6) 仮設工

・施工期間中は、歩行者の通路を確保するため、仮設歩道工を設置するものとし、単管パイプによる栈橋と斜面通路を95日間設置するものと見込んでいる。使用する仮設材については、運搬距離40kmを見込んでいる。

・通行止めの市道を工事用道路として使用することとしているが、橋梁背面が洗掘していることから、大型土のうによる土留及び盛土にて補修することを見込んでいる。工事終了後は、撤去する見込みであるが、道路管理者からの条件により変更が生じた場合には、別途協議します。

・大型土のうにより河川仮締切り工を実施することを見込んでいる。また、水替工として、ポンプ1台による30日間の作業時排水を見込んでいる。

(7) 安全費

歩行者の通行を確保するため、1箇所53人日の交通誘導員を配置することを見込んでいる。

(8) 技術管理費

平板載荷試験(100KN)を1箇所行い、擁壁構築箇所の地盤支持力を確認するものとする。

4. 工事諸経費

工事諸経費については、道路改良工事を適用し積算している。